

名古屋大学における男女共同参画推進のための施策体系

提言項目(平成12(2000)年度作成)

提言項目1. 名古屋大学における男女共同参画推進のための基本的な理念と方針の確定と表明

提言項目2. 男女共同参画社会に寄与する教育・研究活動の拡充

- (1) 教育カリキュラムにおける男女共同参画分野(女性学、ジェンダー研究等)の拡充
- (2) 男女共同参画分野及び関連分野における研究活動の促進

提言項目3. 名古屋大学の教職員・学生数に関する調査統計資料の整備等

提言項目4. 女性教員増加のための、教員公募システムの確立とポジティブ・アクションの採用

- (1) 教員公募システムの確立
- (2) ポジティブ・アクションの採用
- (3) ポジティブ・アクション・プランの設定
- (4) 女性教員比率の部局評価項目への組み入れ

提言項目5. 理工系とその他の特に女性の少ない分野への女性の参画の推進

提言項目6. 女性職員の昇進の拡大

具体的推進方策(平成13(2001)年度作成)

具体的推進方策1. 提言についての教職員・学生に対する周知(具体的推進方策1)

具体的推進方策2. 男女共同参画社会に寄与する教育及び研究における男女共同参画の推進(具体的推進方策2)

具体的推進方策3. 女性教員増加のための教員公募システムの確立とポジティブ・アクション(具体的推進方策3)

具体的推進方策4. 女性研究者の処遇及び研究環境の改善(具体的推進方策6)

具体的推進方策5. 理工系とその他の特に女性の少ない分野への女性の参画の推進(具体的推進方策4)

具体的推進方策6. 女性職員の昇進の拡大について(職員研修の充実及び意識啓発の推進等)(具体的推進方策5)

2003年度方針

引き続き提言および活動方針の周知徹底をはかる。

- ① 全学カリキュラムでの女性学・ジェンダー関連科目の開設を目指す。
- ② 男女共同参画に寄与する研究活動を奨励する。
 - a) 研究プロジェクト予算枠を検討する。
 - b) 学内教育資源を検討し、研究プロジェクトチーム(政策研究及び基礎研究)を組織する。

引き続き資料の整備をはかる。

- ① 男女共同参画を推進するための教員公募システムを検討する。
- ② 女性教員比率に関する全学の目標を設定し、評価を行う。

理工系とその他の特に女性の少ない分野の女子学生支援策を検討する。

- ① 適材適所の人材配置を行うことにより、意欲と能力のある女性職員の部長・専門職員以上への昇進の拡大を積極的にはかる。
- ② 女性職員の職員研修への参加の拡大及び意識啓発をはかる。

提言項目7. 非常勤講師の処遇及び研究環境の改善について

具体的推進方策7. 非常勤講師の処遇及び研究環境の改善
(具体的推進方策6)

非常勤講師の処遇及び研究環境について検討する。

提言項目8. 研究における男女共同参画の推進及び女性研究者の研究環境の改善

女子大学院生の研究支援について検討する。

提言項目9. 男女共同参画推進を目指す不服申し立て等の制度整備について

具体的推進方策8. 男女共同参画に関わる苦情相談制度の整備
(具体的推進方策7)

制度整備について検討する。

提言項目10. セクシュアル・ハラスメントの防止と問題への対処

具体的推進方策9. セクシュアル・ハラスメントの防止対策制度の整備
(具体的推進方策7)

引き続き制度を運用する。

提言項目11. 育児環境の整備及び介護との両立支援について

具体的推進方策10. 育児環境の整備及び介護との両立支援について
(具体的推進方策8)

① 育児支援体制を確立するため、保育所等具体策を策定する。
② 介護支援体制を確立するため、情報提供や相談の窓口等を整備する。

提言項目12. 旧姓等の使用について

()の数字は、「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言- 男女共同参画に関する具体的推進方策について- (平成14年3月発行)」の項目に対応しています。

① 引き続き主旨の周知徹底をはかる。
② 学生・院生についても主旨の周知徹底をはかる。

提言項目13. 男女共同参画推進のための組織について

男女共同参画室及び男女共同参画推進専門委員会を設置する。

提言新項目14. 産・学・官連携フォーラムの立ち上げ及びシンポジウムの開催

男女共同参画社会推進のための地域との連携については、すでに提言項目2. において述べられているが、2008年度ではこれを重点項目として取り上げる。男女共同参画社会の推進は大学のみで完結するものではなく、中央行政、地域行政、地域産業との連携が不可欠である。そのため、産・学・官の連携をはかり、フォーラムを立ち上げ、その事務局を名古屋大学に置く。フォーラムの活動の一環として、9月に第1回シンポジウム開催を目標とする。